

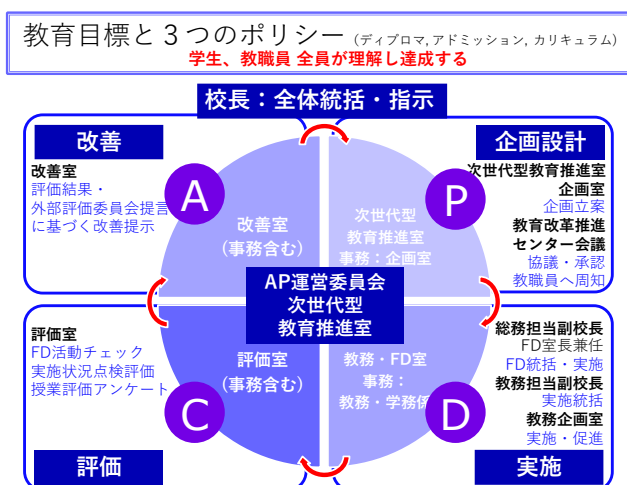
進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

平成30年度は、最終年度を翌年に控え、大学教育再生加速プログラム（以下、AP）テーマ I アクティブ・ラーニング（以下、AL）の完成に向けて、ALを取り入れた次世代型教育システムを構築・実践・展開する発展フェーズとなった。AP初期の導入フェーズ、中期の成長フェーズを経て、平成30年度は教員個々の授業改善や発展に加え、全学的なカリキュラム評価・改善に向けた、既存組織との連携構築を行った。加えてALの一つの完成形とも言える「アクティビティ+CBT」の本格展開を行った。更に、教員の教育能力開発、新カリキュラム開発、効果的な授業・自主学習のためのインフラ整備、支援体制整備がほぼ完了し、主体的・対話的で深い学びをより効果的・効率的に実現する全学的なPDCAサイクル推進基盤が整備された。以上より、APによって本校全体としての改革を大きく加速・推進することができたといえる。

② 事業の実施体制

校内の AP 実施・推進体制を右図に示す。校長のリーダーシップによる統括・指示の下、全学的な運営による PDCA 実施体制について構築を行った。これまで次世代型教育推進室が行っていた評価（C）、改善（A）について、学内既存組織である評価室、改善室が行う形に最適化を図り本校の教育目標と3つのポリシーに基づき学内組織間の連携によるスピードある推進体制でPDCAサイクルを推進し、更に外部評価委員による客観的な評価を反映させながら AP 全体運営を行う形に改善した。これにより、学内展開・改善の速度が増したとともに、教員個々への動機付けがなされ、更なる意識向上と積極的な参加に繋がった。また、監査に合わせて学生、卒業生を対象としたヒアリング調査を行い、ALに関する取組成果と課題を把握して改善を図っている。新カリキュラムとして進行しているコース制においても、効果的に機能している。なお、外部評価委員には実際に卒業生を受け入れている企業も含まれており、企業・社会として望む人材育成の観点からも評価を頂き、取組に反映させて改善に繋げている。



③ 事業の実実施計画・継続性

「全ての学生の能力を十分に伸ばす」ため、AP 開始時に設定した「A³ (A キューブ) 学習システム」による「アクティブラーニング型授業」、「問題解決型/プロジェクト型 PBL」、「マイペース完全習得学習」の教育システム開発を拡大した。「教員研修」、「カリキュラム開発」、「インフラ・支援体制整備」、「情報発信」を重点項目として開始時にかなり高い目標を設定していたが、その目標を上回る成果を得た多くの項目を含め、ほぼ当初目標通りに実施できている。更に、「ジェネリックスキル分析・反映」、「“やじカフェ”による双方向型 FD」、「授業評価・即時改善手法とツール開発・運用」、「コース制進行における“アクティビティ+CBT”カリキュラム開発・運用」といった、当初計画には無かった効果的かつ効率的な手法を多く開発し、実践運用まで繋げている。

AP 終了後の継続的・発展的な実施に向け、学内に恒久組織として「教育改革推進センター」を設立した。センター内の「次世代型教育推進室」及び学内既存組織の「教務企画室」、「評価室」、「改善室」が連携して PDCA サイクルを推進する。AP により、教員の意識改革も大きく進展した。インフラについては、AP 終了後に継続実施するための環境整備を計画通りに実施することができた。事務体制につ

いても AP で得た知見・ノウハウを活用することにより、規模の縮小無く、効果的・効率的に運営できる基盤を構築できた。以上より、計画に沿った、あるいは計画以上の着実な事業推進と AP 終了後の継続実施体制について構築できた。

④ 事業成果の普及

AP による AL 推進・普及について、AL の質向上、環境整備、授業改善、**新カリキュラム（コース制）への反映**に取組しながら、国内外の学会やフォーラムでの多くの発表や学外 FD を通じて、得た成果を先駆的なモデルとして学外へ積極的に展開した（フォーラム/シンポジウム 6 件、国際学会発表 2 件、国内学会等発表 7 件、シンポジウムポスター発表 3 件、その他講演等 4 件）。学会発表以外の代表的な例として、仙台高専で設計した**双方向型 FD「やじカフェ」**に長岡高専から 2 度目の実施依頼があり、1 回目からの変化を踏まえた更なる AL 推進と ICT ツール活用実践に関する FD を行った。また、岐阜高専より FD の依頼を受け、「仙台高専における授業力向上への取組」と題して、授業評価・即時改善への取組と、ツール開発・運用について講演した。開発した「**授業評価・即時改善ツール**」については、**10 校以上の高専・大学より試用したいとの依頼を受け、展開している**。更に、**ジェネリックスキルテストの実施と活用法に関する FD** を長岡技術科学大学及び木更津高専より依頼を受けて実施した。本校学生のジェネリックスキルの継続的調査結果と、学生及び学校(カリキュラムや授業設計)へのフィードバックをはじめとする効果的な活用方法について講演した。

宮城県教育委員会後援の下、宮城県内の小中高教員、大学、教育関係者が広く参加した「**第 2 回仙台高専フォーラム**」では、外部講師による、自身の教育活動に関する振り返り・改善を効果的かつ効率的に行えるワークショップ（Teaching Portfolio チャートの作成）を実施できたことにより、AL 推進を加速した。また、仙台高専と石巻専修大学との共催で「**第 2 回東北アクティブラーニングフォーラム**」を開催して、情報共有・連携の機会を構築できた。平成 29 年度に本校が主幹校として開始した**AP 採択 6 高専による合同フォーラム**についても、平成 30 年度は第 2 回を「高専フォーラム」で、第 3 回を「高専シンポジウム」で開催した。合同フォーラムでは、各採択校の取組をまとめた資料を配布して、参加者が自校に持ち帰り、すぐに実践できるようにするなど、多くの高専に展開することができた。加えて、全国高専の校長、教務主事、高専教員、企業が集まった**高専機構主催の高専教育シンポジウム**で「先進的教育改革の成果と他高専への展開」として報告した。また、ホームページや Facebook、Find!アクティブラーナー社との連携による AL 型授業動画発信を行った。

以上の取組により、AP による仙台高専での成果について、**外部の多くの機関や教職員に波及させ、社会的に貢献できた**と考える。また、上記の取組は **AP 終了後も継続実施可能**であることから、長期的視点からも有効である。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

仙台高専では、21 世紀を生き抜くスキルを持った人材及び新しい分野を切り開く超有為な人材の育成に貢献するべく、平成 29 年度から実施している**カリキュラム改編（コース制の施行）**を推進するとともに、**教育目標と 3 つのポリシー（ディプロマ、アドミッション、カリキュラム）**を見直し、学生に対して入学から卒業まで、更には留学生や卒業生、社会人に対する**教育の質保証を確固たるものとする教育改革を実施**している。その中核となってきたのが AP による取組であり、「**教職員の意識改革**」、「**カリキュラム開発**」、「**インフラ・支援体制整備**」、「**先駆的モデルとしての情報発信、社会貢献**」について、AP によって、学内 1 組織ではなく**全学的な取組として効果的かつ総合的に実施**できたとともに、**AP 終了後の継続的な実施基盤を構築**できたと考える。特に教職員の意識改革については、多様な考えを持つ教職員がいる中で、学内 1 組織や個人での取組ではなかなか普及困難であるが、校長はじめトップの強力なリーダーシップの下で、従来から培ってきた良い点や考えは維持・尊重しながら、改善すべき点は全学的に改善を進めることの重要性とその効果が良い形で示されたと言える。